

SEISA Africa・Asia Bridge 2015

Report



SEISA Africa・Asia Bridge 2015 実行委員会



1、当日までの経緯

星槎とエリトリア国の交流は、2020 東京オリンピック・パラリンピック大会に向けた支援等を中心としたエリトリア-日本スポーツコラボレーション締結（2014 年）により、具体的に進み始めています。今後、世界で圧倒的な変化を見せるであろうアフリカの国々を題材に、私達が共生社会のヒントを学び、星槎の教育活動へと活かしていくための「SEISA Africa・Asia Bridge 2015」が星槎中学高等学校で開催されることが決定しました。



教職員のアフリカに関する知識、理解もまだまだ乏しく、教員のアフリカに関するイメージを確かなものに高める必要があったため、4月上旬には本グループの宮澤保夫会長とともに横浜赤レンガ倉庫で行われた、AFRICAN FESTIVAL の視察（エリトリア国エスティファノス大使との初顔合わせ、サンコンさんとの遭遇）を行いました。



5月26日（火）には、エリトリア国エスティファノス大使およびエリトリアオリンピック委員会委員長のメハリ氏、エリトリア陸連事務局長のタデッセ氏の星槎中高訪問および講演が行われ、生徒もよりエリトリアとアフリカを身近に感じる機会を得ることができました。



続く5月28日（木）には、エリトリア国のレセプションパーティーにご招待いただき、外務省やJOC、スポーツメーカーとの結びつき・支援体制を肌で感じ、その際、外務省アフリカ部の地域調整官の原田氏からは「アフリカのネガティブなイメージ（貧困や対立など）だけでなく、素晴らしい部分にも目を向けてほしい」と強く依頼されました。

8月に行われた世界陸上北京大会のマラソンでエリトリアの
ギルマイ選手が金メダルを獲得するとアフリカへの関心は大き
く高まりました。



9月2日、エリトリアオリンピック委員会、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町、星槎グループ/
世界こども財団の6者による東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるエリトリア国
との事前キャンプに関する協定書締結が横浜ロイヤルパークホテルで行われました。



2、事前準備

2-1 学習活動

アフリカに関する学びは、本年度のほぼ全ての教科の年間指導計画に盛り込まれ、アフリカを様々な
角度からの学びがスタートしました。こうした取り組みにより、生徒にとってアフリカが身近になりま
した。ここから始まり、つながり、発展する学習はまさに星槎グループの考える共感理解教育と言え
ると思います。この学習は SEISA Africa・Asia Bridge 2015 に向けた取り組みではありましたが、今後も
共生や多様性というテーマを考えるにあたり、重要な時間となるはずで。

(年間指導計画の一例)

科目名	単元名	学習内容
コミュニケーション英語	アフリカの現在	アフリカ出身の ALT からアフリカの現状を聞く。
科学と人間生活	アフリカの自然環境	大陸地動説からアフリカ大陸の自然現象を知る。
化学基礎	アフリカの生物と社会問題	絶滅危惧種とされる生物の生態とそれを取り巻く生活環境を知る。
数学活用	アフリカ諸国の面積	アフリカ諸国の面積を求め、国境線の由来や意味を理解する。
現代社会	アフリカの経済	アフリカを4エリア(東西南北)に分け、経済や今後の課題について比較し、その要因を理解する。
世界史	アフリカ史	アフリカの植民地化について理解する。
家庭基礎	アフリカの生活	気候による生活の違いを理解する。
食生活の研究Ⅰ	食文化	アフリカの生活食について理解する。
保健体育	綱引き	アフリカ発祥の綱引きを行いながら基礎体力を高める。

2-2 事前交流

SEISA Africa・Asia Bridge 2015 当日までに、生徒の理解をより深めるため、夏季休暇期間中の8月には横浜国際交流会館のご協力をいただき、横浜の大学院に通うアフリカの留学生と、星槎の代表生徒との交流を行いました。

留学生の母国の紹介プレゼンテーションや食事会、レクリエーションを通じて、アフリカの文化や実情をより身近なものとして考えるよい契機となりました。



10月には東京ドームホテルのレストランにて、ICA（国際文化協会）のご協力いただき、各国を代表するミスの方々と交流の機会をいただきました。星槎を代表して、SEISA Africa・Asia Bridge 2015 実行委員会の生徒と生徒会メンバーが参加いたしました。



また、こうした取り組みを近隣の小中学生とも共有するために、横浜市長若葉台小学校と横浜市長若葉台中学校の代表生徒とも交流を行い、次の世代を担う生徒たちがアフリカをどのように捉え、関わっていくのかを話し合いました。

3、SEISA Africa・Asia Bridge 2015

3-1 実施日 平成 27 年 11 月 15 日（日）最高気温 19℃ 最低気温 13℃
朝方まで激しい雨 正午より晴れ

3-2 場所 星槎中学高等学校、大貫谷公園、若葉台中央アーケード
〒241-0801 神奈川県横浜市旭区若葉台 4-35-1

3-3 目的

日本の生徒とアフリカ出身の子どもたちが主役になり、お互いに知る。

星槎の生徒と地域の皆様が関心を持ち、活動して、関わりを持つきっかけにする。

他との異なりとは、それぞれの豊かさを表し、互いを区別するものではなく、理解し、認めるものであることを体験する。



3-4 実施企画

＜開催宣言＞

あいにくに雨模様の中、朝早くから多くの方へ家にご来場いただき、メインステージである体育館はあっという間に埋め尽くされたため、開催予定時刻を前倒して、開催宣言が行われました。



<SEISA Africa・Asia Bridge 子ども アフリカ宣言（体育館）>

共に準備した小学生、中学生、高校生たちが、自分たちの作る共生社会に向けて「SEISA Africa・Asia Bridge 子ども宣言」を採択するセレモニーが行われ、参加された外務省アフリカ部長丸山様、横浜市国際局長関本様に手渡されました。将来を担う児童・生徒たちが、アフリカと、世界の国々とどうかかわっていかを考えたアクションプランです。

「SEISA Africa・Asia Bridge 子ども 宣言」

- 1 わたしたちは、世界平和をめざし、人々が互いに認め合い、共に生きる世界を作ります。
- 1 わたしたちは、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、アフリカと日本のかけ橋になります。
- 1 わたしたちは、アフリカ・アジアの国々について理解を深め、それらの国々と一層交流を深めます。
- 1 わたしたちは、「SEISA Africa・Asia Bridge 2015」をきっかけに、アフリカと深く関わり信頼の輪を広げます。
- 1 わたしたちは、「人を認める」「人を排除しない」「仲間をつくる」の3つを大切に、笑顔溢れる社会をつくり続けます。
- 1 わたしたちは、アフリカ、さらにアジアの国々と手をたずさえ、人々の共生を希求し、社会貢献や世界平和に寄与できる人になるため、「SEISA Africa・Asia Bridge」を続けます。

起案者

横浜市立若葉台小学校 代表生徒

金川 陸

横浜市立若葉台中学校 代表生徒

松本 誠輝 竹本 陽太

星槎中学校 代表生徒

伴 智朗

星槎高等学校 代表生徒

向井 創真

星槎国際高等学校 全国生徒会代表生徒

副嶋 俊孝



＜アフリカ理解コーナー①（体育館）＞

読売新聞特別編集委員の橋本五郎氏が「日本の将来とアフリカ」をテーマに記念講演を行いました。大人の方だけでなく、生徒たちも真剣な表情で、自分たちとアフリカ諸国との関係について考えていました。



＜アフリカ理解コーナー②（体育館）＞

元ギニア共和国外交官でギニア日本交流協会顧問のオスマンサンコン氏と多くのアフリカ各国出身の方々をお招きして、生徒や来場者の方が気軽に会話することのできる「質問してみよう」コーナーが実施されました。大人が深く考えてしまう内容のものから「アフリカにどら焼きや焼き鳥はありますか」など、会場の笑いを誘う質問までたくさんの質問がありました。



＜アフリカ理解コーナー③（体育館）＞

「SEISA Africa・Asia Bridge 子ども アフリカ宣言」をもとに、参加した代表生徒たちによるディスカッションも行われ、自分たちが日々の生活にどのような変化をもたせればよいかが話し合われました。



<学習発表（教室ブース・体育館）>

年間を通じた学習内容の発表の仕方はさまざまでクイズ・ゲーム・劇・ものづくり等、生徒の自由な発想で表現されました。また、体育館では、代表生徒たちによるアフリカに関するパワーポイントを用いたプレゼンテーションが行われました。さらに、体育館の壁面には、全国の中高生から寄せられた学習発表ポスターが掲示され、このイベントを通じて、アフリカの学びが全国に広がっていることが分かりました。



<アフリカ物産コーナー（教室ブース）>

アフリカの民芸品等の販売ブース。衣食住に関わる様々なものを販売し、アフリカの文化に触れる機会が設けられました。色とりどりの品物は、現地で作成する人々の暮らし、文化を色濃く伝え、手に取る人々になるほどと頷く様子が印象的でした。



<アフリカ各国大使館コーナー（教室ブース）>

アフリカ各国の大使館による紹介ブース。各国大使館の書記官やスタッフの方々をお招きして、自国の歴史・文化・自然をお話しいただきました。また、写真や実際の物品、現地のお菓子などを配布することを通して、本物のアフリカ各国の多様性に触れる機会が設けられました。



<体験交流コーナー①（教室ブース）>

伝統遊具・楽器体験コーナーを教室ブースに設け、交流及びアフリカの文化に触れる機会が設けられました。アフリカ独特の打楽器で奏でるリズムは、言葉の壁を越えて、多くの人の表情を笑顔に変えていました。



<体験交流コーナー②（体育館・グラウンド屋外ドームテント）>

グラウンド中央に設置された屋根付きの大型ステージでは、プロの民族音楽・民族ダンスのパフォーマンスが繰り広げられ、アフリカの本物のリズム＆ダンスは来場者だけでなく、通りかかった人々の目を引いていました。



<体験交流コーナー③（グラウンド）>

フットサル・シッティングバレー・スピードガンコーナーは、朝からの雨で実施が危ぶまれていましたが、多くの来場者の願いが届き、昼ごろには実施可能なグラウンドコンディションになり、多くの方の交流の場となりました。言葉が通じなくても、参加することで共感できる、スポーツの持つ力をみることができました。



<体験交流コーナー④（エントランス）>

星槎中高保護者によるアフリカンアクセサリーのワークショップと民族衣装の体験コーナーが実施されました。全校の保護者によって作成されたアクセサリー用の手作りビーズは、当日ネックレスやブレスレット、髪飾りになり、アフリカの民族衣装を身にまとった来場者をより華やかな装いにし、会場を盛り上げていました。



<アフリカパレード（若葉台地域）>

若葉台地域の方々と共にアフリカの衣装、日本の衣装、アフリカの音楽、日本の音楽でパレードを実施する予定でしたが、雨により中止となりました。昼からの晴れ間に、中止を惜しむ声をたくさんいただきました。次年度こそは実施できることを願っています。

<開催宣言>

星槎の中高生の合同吹奏楽団の演奏が始まるころには、来場いただいた多くの方々が、グラウンド中央のステージに集合しました。大歓声の中、いよいよフィナーレとして、星槎グループ宮澤保夫会長から「肌の色が違って、国が違って、宗教が違って、生きるということは全く同じだ！生きる力があれば、人を認めようとする力があれば、みんなが分かりあえる！みんなが仲良くなれば、笑顔が生まれる！星槎の文化をみんなで創って、世の中に広めていこう！」という熱い熱いメッセージが伝えられ、SEISA Africa・Asia Bridge2015 は熱気の冷めぬままに幕を閉じました。



3-5 最終来場者総数（概数） 約 4,000 人

3-6 主催・後援・協力

主催 公益財団法人 世界こども財団
SEISA Africa Asia Bridge 2015 実行委員会
学校法人 国際学園

後援 外務省 独立行政法人国際協力機構（JICA）
神奈川県 横浜市 大磯町 箱根町
神奈川県教育委員会 横浜市教育委員会
小田原市教育委員会 大磯町教育委員会 他

協力 横浜若葉台連合自治会 若葉台まちづくりセンター ミズノ株式会社 他

3-7 SEISA Africa・Asia Bridge2015 実行委員会

松岡 和久	公益財団法人 CIESF 副理事長
高橋 正治	横浜市会アフリカ議員 副団長
西川 りゅうじん	マーケティングコンサルタント
山岸 弘樹	若葉台連合自治会 会長
佐々木 卓	星槎グループ 統括本部長
井上 一	国際学園 理事長 兼 星槎大学 学長
桑原 寿紀	星槎グループ本部 副本部長
細田 満和子	星槎大学 副学長
渡辺 保子	星槎学園高等部北斗校 校長
福川 啓介	星槎国際高等学校 湘南学習センター 副センター長
石井 洋祐	世界こども財団
廣瀬 かおり	星槎中学高等学校保護者会 有志代表
金子 肇	星槎中学高等学校 校長
栗山 裕章	星槎高等学校 副校長
佐藤 由加子	星槎中学校 副校長
垣内 麻由美	星槎高等学校 教頭
蓮田 亮大	星槎中学校 教頭
園田 尚広	星槎中学校 教諭
齋藤 友仁	星槎高等学校 教諭
中村 勇貴	星槎高等学校 教諭